

## 猫伝染性腹膜炎 (FIP) とは？

- 猫伝染性腹膜炎は猫コロナウイルス (FCoV) が原因となります。
- FCoV感染はいたるところに存在し、多頭飼育環境下では非常に一般的です。
- 感染猫の一部だけがFIPを発症します。
- ストレス (新しい家族、不妊・去勢手術、ホテルなど) で罹患しやすくなります。
- FIPは1歳齢未満で多頭飼育環境下の猫に好発します。
- 純血種の猫は、FCoVの影響を受けやすいようです。
- FCoVは乾燥した環境下で約2カ月間生存することができます。
- FCoVは洗剤や消毒薬で容易に失活します。

## 感染

- 糞便中にウイルスを排泄している猫がFCoVのおもな感染源となります；唾液や妊娠による伝播は稀です。
- FCoVはトイレ、靴、衣服を介して、間接的に感染することもあります。
- 猫は感染後1週間以内にウイルスを排泄し始め、数週間～数カ月間、ときに生涯ウイルスを排泄し続けます。
- FIPはマクロファージや単球内で爆発的に増殖するFCoVの変異(株) が原因です。
- FIPが発症するかどうかはウイルス量と猫の免疫応答によって決まります。

## 臨床症状

- FCoV感染猫の多くは健康のままか、軽度の腸炎を示すだけです。
- 波状熱、体重減少、食欲不振、抑鬱が、FIPでよく認められる初期症状です。
- 発症したFIPの症状は以下のとおりです。
  - 一滲出 (ウェット) 型：多発性漿膜炎 (腹水、胸水、および/または心嚢液貯留)
  - 一非滲出 (ドライ) 型：多様な臓器における肉芽腫性病変 (腎肥大症、慢性下痢、リンパ節肥大)
- これらの型は臨床上極端な連続的なつながりと考えられます。
- 眼症状として、ブドウ膜炎、前眼房水の角膜後面沈着物 (“Mutton fat”)、

脈絡網膜炎、網膜血管周囲細胞浸潤、化膿性肉芽腫性網膜炎が認められます。

- 神経症状(10%以下) には、運動失調、知覚過敏、眼振、発作、行動の変化、脳神経障害があります。
- 臨床症状は非常に多岐にわたり、病変部位によっても異なります。

## 診断

- 非滲出 (ドライ) 型を確定診断する非侵襲的な検査方法はありません。
- FIPを示唆する検査所見は、リンパ球減少症、非再生性貧血、総血清タンパクの上昇、高グロブリン血症、アルブミン/グロブリン比の低下、 $\alpha$ -1産生糖タンパクの高値、FCoV抗体価の上昇です。
- FCoV抗体価の上昇だけでは診断意義はありません。
- FIPを示唆する滲出液には、リバルタ反応による陽性を示し、高タンパク、低アルブミン/グロブリン比、好中球とマクロファージが認められます。
- 特殊検査によって証明されたFCoV抗原陽性細胞 (化膿性肉芽腫や腹水沈渣の生検サンプルにおける免疫蛍光法、免疫組織化学法) がFIPを確定します。
- 血液サンプルを用いたFCoV RT-RCPは診断には適していません：FIPを誘導する変異株と固有のFCoVを識別することはできません。

## 疾病管理

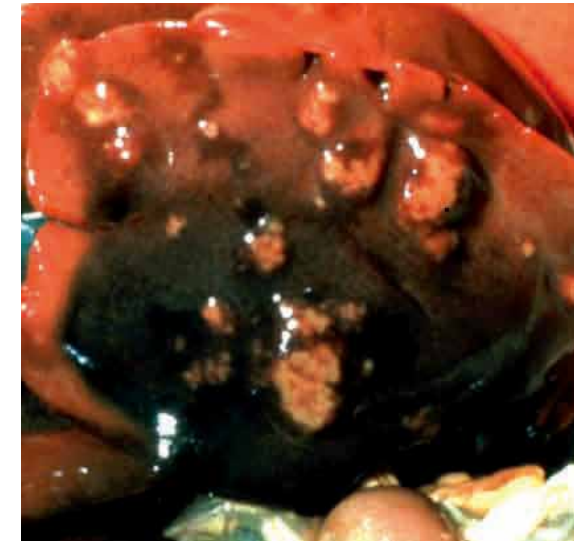
- FIPの予後は不良です。診断後の生存期間中央値は9日です。
- 確定診断後にのみ、安楽死は考慮するべきです。
- 支持療法は炎症と有害な免疫応答の抑制を目的とし、一般的には副腎皮質ホルモンを使用します。
- FIP罹患猫が死亡した家庭では、新しい猫を導入するまでに2カ月間は待つことを推奨します。同居猫の大半はFCoVを保有しています。
- FIPは集団生活 (繁殖、レスキュー施設) している猫において問題となり、室内外を行き来している猫では稀にしか発症しません。
- 厳格な衛生管理、十分で頻回のトイレ清掃や外出に適応した少数飼育グループにおいて汚染を減少することができます。
- FCoV排泄は糞便サンプルのリアルタイム定量RT-RCPにて検出することができますが、多数のサンプル採取 (3週間以上ごとに4回) が必須となります。

ワクチン接種の推奨

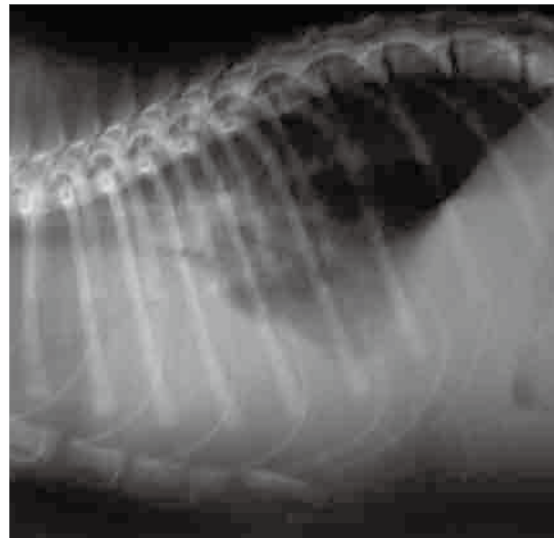
- FIPワクチンはノンコアワクチンです。
- FIPワクチン（鼻腔内接種）は1種類だけで、利用できるのは米国とヨーロッパの数カ国のみです。
- すでにFCoVに感染している猫にはワクチンは効果がありません。しかし、抗体陰性である子猫が流行している環境に移動する前には役に立つことがあります。
- ワクチン接種を考慮する際には、16週齢以前に初回接種を行うべきではありません。



■ FIPに感染したスフィンクス猫に認められた腹腔内の体液貯留



■ FIPドライ型：肝臓に認められた肉芽腫病変



■ 胸部と腹部の滲出液を示すFIP感染猫のX線検査所見



■ FIPドライ型の猫に認められたブドウ膜炎



■ FIPを発症した猫の前房出血